

## 5.17 (SAT) 23:00- ALL NIGHT 「天才現る! 疾風怒濤の時代」

1970年代・80年代の自主映画界は熱気にあふれ、若手スター監督や役者たちが互いに競いあい、刺激を受け、高めあった時代でした。そういった流れの中から、今なお語り継がれる数々の傑作が生まれていきました。オールナイトでは、その伝説の名作群を可能な限り当時のままのフィルムで上映します。

### 『アートマン』



監督: 松本俊夫  
1975年/11分/16mm/カラー  
『SPACY』の伊藤高志監督に決定的な影響を与えた実験映画の伝説的名作。480箇所のピン・ポイントから赤外線フィルムで撮影された静止画像が、めくるめく円運動を描き出すスチル・ムービーの試み。先駆者・松本俊夫は世界的に絶大な影響力を及ぼす。

### 『ユキがロックを棄てた夏』



監督: 長崎俊一  
1978年/70分/16mm/白黒  
ロックバンドのボーカル・ユキは、メンバーを裏切りフォーク歌手としてメジャーデビューを目指す。元マネージャーはそれに気づき説得しようとするが、当時最も本気度が高く、恐れられかつ尊敬されていた日大芸術学部が生んだ傑作。主演は内藤剛志。

### 『ビハインド』



監督: 山川直人  
1978年/60分/8mm/白黒+カラー  
監督が意図した「意識変革の為の自己の背景探究とそれに付随する状況のイメージ、およびその直接的な人間関係、集団力学の考察」を表現する大胆なカットングのセンスとリズムに驚愕する早稲田シネ研の傑作。ベルリン国際映画祭出品作。

### 『看守殺しの序曲』



監督: 山本政志  
1979年/60分/8mm/カラー  
夜は地下鉄の掃除をし、昼には廃墟に煙草の空き箱でミニチュアの街を作る、閉塞した時代の片隅で生きる男を淡々と写し撮っていく。数々の刺激的な作品を生みだし、ジャンルや国籍を軽々と超越し続ける山本政志監督の幻の処女作。

### 『終(しゅう)』



監督: 寺田裕之  
1980年/55分/8mm/カラー  
刺激を求め、空き巣を行う高校生3人の破局。当時高校2年生の寺田監督の秀逸な演出で、成蹊高校映画研究部の名前を一層響かせた伝説の一作。主演は同映研所属の利重剛。日本映像フェスティバル高校生部門グランプリ・東京都知事賞受賞。

### 『MOMENT』



監督: 手塚眞  
1981年/73分/8mm/カラー  
100名を超える登場人物、著名人の出演、公園を舞台にした圧巻のミュージカルシーンなど、型破りなスケールと演出が当時の自主映画界に計り知れない衝撃を与えた学園コメディ。10代の監督作品が驚異的なヒットを記録した、超必見作。

### TIME TABLE ※開場時間は開演10分前を予定。

#### [ALL NIGHT 上映]

#### 5.17 (SAT) 23:00-

\*数回の休憩を挟み、5:00頃の終了を予定しております。

18日(日)からは連日LATE SHOW 上映!

#### 5.18 (SUN) 21:15- 『山守クリップ工場の辺り』

『Pellet』

#### 5.19 (MON) 21:15- 『女島』『青春墓場～問答無用～』

#### 5.20 (TUE) 21:15- 『震動』『ワタシハコトバカズガスクナイ』

#### 5.21 (WED) 21:15- 『きみの信じる神様なんて本当にいるの?』

『珈琲とミルク』

#### 5.22 (THU) 21:15- 『愛のはずみ』『睡蓮の人』

『HerRes～出会いをめぐる三分間の試問3本立て～』

#### 5.23 (FRI) 21:15- 『夜の法則』『夜とケイゴカー』

### 『SPACY』



監督: 伊藤高志  
1981年/10分/16mm/白黒+カラー  
計算され尽くした絵コンテを元に撮影された700枚にもおよぶ連続写真があたかもジェットコースターのような運動感を紡ぎ出す。当時大学生だった監督の衝撃的デビュー作。世界中の美術館に収蔵される最も有名な日本の実験映画の一作。



〒163-0292 東京都新宿区三軒丸井1-1-1  
TEL 03-3352-1846 www.ttcg.jp

## 第36回PFFプレイヴェント

# ナイトトリップ

in PFF

Theatre  
Shinjuku  
テアトル新宿

ゲスト来場予定あり

2014 5.17(SAT)-23(FRI)

PFFとめぐる時空の旅にでかけよう

お問い合わせ: PFF事務局 03-5774-5296 (平日11:00~18:00)

# 70年代から現在までを駆け抜ける一週間

今回PFFプレ・イベントでは、8mm自主映画最盛期ともいえる70～80年代前半の伝説的作品をオールナイトで上映するのに加え、デジタル時代の2000年以降に作られ光を放ち続ける入選作品を厳選してお届けします。

日本独自の文化である自主映画は、いまこの瞬間にも作られ続けています。今回上映するのはその中のほんのひと握りの作品たち。でもそれはひょっとするとあなたの心をとらえて離さない映画かもしれません。テアトル新宿でその作品に出会う奇跡を。さあ、PFFと一緒に夜の旅に出かけませんか？

## 5.18(SUN)-23(FRI)LATE SHOW「様々な物語が生まれる時代」

レイトショーでは、ビデオ作品全盛期となった2000年代から現在までの新世代監督たちによる作品群を上映します。創意溢れる物語が生まれ続けるアワード入選作品の中から「2000年代」の短編を6本、一番新しい「現在」の入選作品であるアワード2013から7本をピックアップしてお届けします。

### 5.18 (SUN) 21:15- 芸術へと昇華する

『山守クリップ工場の辺り』 監督:池田暁 / 99分  
**世界が絶賛した中年男をめぐるファンタジー**  
 クリップ工場で働く心優しい中年男。ひとり暮らしのみずぼらしい部屋に迷い込んだ蝶を助けた翌日、謎の男女が彼の部屋で暮らし始める。パンクパー、ロッテルダムと、海外映画祭でグランプリ受賞が続く超人気作。  
 PFFアワード2013 審査員特別賞

『Pellet』 監督:小林和史 / 17分  
**究極の結合願望を美的センス満載で表現**  
 恋人とフクロウの親密ぶりに衝撃を受けた「私」は、ある決意をする。フクロウが吐き出す物体=ペレットをはじめ、生物&無生物の造形美を随所に配して、究極の愛の形を表現。ロッテルダム国際映画祭など多くの海外映画祭に招待された。  
 PFFアワード2001 準グランプリ、技術賞

### 5.19 (MON) 21:15- 活劇が世界を熱くする

『女島』 監督:泉谷智規 / 79分  
**生きる意味を問うパワフル青春暗黒活劇**  
 肉解体の仕事をする青年・女島(めじま)は、無為な日々、怒りを募らせていた。あるとき出会った中国人青年の、生きる目的が明確な逞しさに、女島の内部で何かが暴発する。ロッテルダム国際映画祭ブライト・フューチャー部門招待作品。  
 PFFアワード2013 審査員特別賞、ジェムストーン賞

『青春墓場～問答無用～』 監督:奥田庸介 / 29分  
**チンピラ映画がスプラッターへ鮮やかに転換**  
 復讐に燃えたチンピラが、恋人とともに変態異常者に監禁される。奥田監督はこの次の作品『青春墓場～明日と一緒に歩くのだ～』をジョニー・トー監督に激賞され、2012年2月公開の『東京プレイボーイクラブ』で商業映画デビュー。  
 PFFアワード2009 入選

### 5.20 (TUE) 21:15- 迫りくる感動

『震動』 監督:平野朝美 / 73分  
**支えあってきた2人の、爽やかな成長物語**  
 施設で一緒に育った高校生男女。バンド活動を始めて生き生きとする彼に、耳の聴こえない彼女の心が揺れ動く。ひとつひとつの台詞が心に響く、丁寧に練られた感動作。イギリスのレインダンス映画祭招待作品。  
 PFFアワード2013 映画ファン賞

『ワタシハコトバカズガスクナイ』 監督:上田大樹 / 23分  
**崖っぷち女の子の空白を埋める愛すべき日々**  
 バイトをクビになり、留年が決まり、恋人にふられたミワの、夏の日々をポップに描く。ミワを演じるのは安藤玉恵。このあと上田監督は『NEG. WONDERLAND(ネガ・ワンダーランド)』でPFFアワード2003のグランプリを受賞。  
 PFFアワード2000 準グランプリ

### 5.21 (WED) 21:15- 子供に寄り添うカメラ

『きみの信じる神様なんて本当にいるの?』 監督:猪狩裕子 / 87分  
**負の環境に置かれた子供たちの逞しさ**  
 巨大団地に住む少年少女。両親が不法滞在者である少年と、酒に溺れ育児放棄の母を持つ少女。世界で孤立していた2人は出会い、互いの幸せを祈る。子供たちのひとり遊びに寄り添う撮影、ロケーション、自然な演技が秀逸。  
 PFFアワード2013 準グランプリ

『珈琲とミルク』 監督:熊坂出 / 30分  
**恋したときの懸命さと心痛を味わう小学生**  
 ミルクと呼ばれる少年は、12歳年上の女性・珈琲に恋をする。耳の聴こえない珈琲のため、ミルクは音を写真で表現しようとするが…。熊坂監督は商業デビュー作『パーク アンド ラブホテル』でベルリン国際映画祭最優秀新人作品賞を受賞。  
 PFFアワード2005 審査員特別賞、企画賞、クリエイティブ賞

### 5.22 (THU) 21:15- 貫かれる独創

『愛のはずみ』 監督:佐藤悠玄 / 78分  
**ヒロインの表情だけでスリリングに物語を展開**  
 少年院から出たばかりの少女は、ある青年を尾行。無口で大胆な少女の表情だけで、彼女の秘めた狙いを少しずつ観客に理解させていく、その演出力が際立つ。怒りの表情がやがて微かに柔和になったとき、驚愕の真実が明らかになる。  
 PFFアワード2013 エンタテインメント賞

『Her Res～出会いをめぐる三分間の試問3本立て～』 監督:山戸結希 / 12分  
**女の子2人が友達から恋人になる道**  
 ポーイッシュなみなみ、ほんわかしたすみれ。彼女たちはどんな出会いをすれば互いの想いを成就できるのか、設定の異なる3つのパターンで描く。山戸監督は今年3月公開の東京女子流を主人公にした『5つ数えれば君の夢』で商業映画デビュー。  
 PFFアワード2012 入選

### 『睡蓮の人』 監督:村田朋泰 / 16分

**孤独な老人とカメの交流を描くクレイアニメーション**  
 古い日本家屋で独居する老人はカメに導かれ、若き日の思い出を蘇らせる。量やふすま、卓袱台など細部まで再現した昭和の風景も懐かしい。村田監督はNHKアニメ『森のレシオ』などを手がけ、日本を代表する若手アニメーション作家に。  
 PFFアワード2002 入選

### 5.23 (FRI) 21:15- 最新グランプリ&審査員特別賞

『夜の法則』 監督:山下洋助 / 64分  
**積み重ねられるアクションが緊迫感を頂点へ**  
 夜の大学で警備員をする青年は、気になる女学生を見つめているうち、通り魔らしき男を目撃。無気力だった青年の夜は、見る・あとを付ける・隠れるといったアドレナリン全開の行為に満ちる。スリリングに満ちた真のアクション映画の誕生だ。  
 PFFアワード2013 審査員特別賞、日本映画ペンクラブ賞

『夜とケイゴカー』 監督:市川悠輔 / 45分  
**田舎道を通る悪夢の不条理ドライブ**  
 身勝手な友人イッチーの運転で田舎町をドライブする、お人よしのケイゴ。女の子には次々にフラれ、車を盗まれ、ヤンキーに絡まれ、ケイゴは拉致される。急加速する不条理で遂には虚構と現実の境も超える異色ロードムービー。  
 PFFアワード2013 グランプリ

## TICKET 全席指定制 前売り券絶賛発売中!

オールナイト券  
 前売り、当日ともに2,500円均一  
 レイトショー前売券  
 1,000円

○チケットぴあで購入 **コード:552-985**

※チケットぴあ、サークルK・サンクス、セブン-イレブンの店舗で直接購入する場合、発券手数料として108円/枚がかかります。  
 ※インターネット、電話予約にて購入された場合、発券手数料およびシステム使用料として、324円/枚がかかります。  
 ※ぴあステーション・スポットでご購入の場合、ご希望の座席を指定することができます。  
 ※前売り券はチケットぴあでのみの販売となります。テアトル新宿窓口での前売券販売はございません。  
 ※前売券の電話予約は各上映日の5日前まで、直接購入は各上映日の2日前までとなります。

レイトショー当日券  
 一般:1,200円 学生:1,000円

水曜日サービスデー: 一般1,100円 学生1,000円

○劇場窓口/劇場オンライン予約で購入

※当日学生券の購入時は、学生証の提示が必要です。  
 ※特別興行のため、一部割引の割引額を変更させて頂く場合がございます。  
 ※各種割引の併用は出来ません。  
 ※劇場窓口/劇場オンライン予約での販売は当日のみであり、先行販売はございません。